



移住者に聴きたい

4年間の富良野通いで「いつか富良野へ」の夢を実現

千葉県八街市から移住して8ヶ月 富良野市東山在住 増田直子さん

2008年の夏、旅行で泊まった中富良野町のペンションで、今までにない居心地の良さに衝撃を受けた増田直さんは、その9ヶ月後に同じペンションに来ていました。理由は「とにかく来たくなったから」。それから、数ヶ月に1度、時には毎月のように富良野に通いました。2009年、北海道暮らしフェアin東京に出向き、富良野市の移住窓口で相談をした後、移住するという想いが固まりました。それから「いつか富良野へ」というタイトルでブログを立ち上げ、富良野に住みたい想いを発信。2010年の夏には、夢のきっかけを作ってくれた中富良野のペンションでヘルパーを経験。その冬、富良野市が提供する「お試し暮らし住宅」で3ヶ月の長期滞在を試みました。そして、2011年、富良野市の東山に単身移住を決行。その時、千葉に残ったご主人は、直子さん



を見守る形で応援してくれましたが、2012年の今年、早期退職者募集をきっかけに会社を辞め、富良野に来てくれました。ついに縁もゆかりもなかった富良野へ移住したいという直子さんの夢が完全に叶ったのです。



2011年北海道暮らしフェアinJAPANより

現在、富良野市でケアマネージャーをしている直子さんには次の夢があります。富良野市老節布に購入した空き家を「障がい者も高齢者も安心して長期滞在できる小さな宿」にすること。スケジュールは「今年中に解体。来年建築。再来年に営業開始!」の3年計画です。



増田直子さん

これから、ブログ「いつか富良野へ」は「小さな宿作り」への想いが地域の風景と共に綴られていくことでしょう。

■2012年 北海道暮らしフェアin JAPAN

下記の予定で富良野市の移住相談ブースが出店する予定です

東京会場

- ◆2012年11月10日(土)
- ◆会場 アキバスクエア屋内スペース
東京都千代田区外神田4-14-1 秋葉原UDX2F

大阪会場

- ◆2012年 9月30日(日)
- ◆会場 大阪マーチャンドイズ・マート Aホール
大阪市中央区大手前1-7-31

■お試し暮らし住宅について

富良野市では、市街地にある弥生住宅を始め、山部、東山地区に4棟のお試し暮らし住宅があります。移住の前に旅行とは違う実生活を知っていただくことが大切です。

お問合せ 富良野市総務部企画振興課 ☎0167-39-2304
<http://www.city.furano.hokkaido.jp/>



ふらのカルチャー・シーン

富良野はアートやネイチャーのイベントが盛りだくさん!



澤田 健さん

第1回目は、富良野市の学芸員澤田さんのナビゲートで、公募写真展「北海道・人とかかわる自然の姿」をご案内します。

開拓以前の北海道は、鬱蒼とした奥深い森が広がり、清冽な川が流れ、多種多様な生き物たちが生息する圧倒的な大自然そのものでした。現在、私たちが身近に目にし、

「自然」と呼ぶ対象には、必ずと言って良いくらい、陽に陰に人の影響が見え隠れします。

農村部の美しい田園風景、大地の恵みである美味しい富良野の農作物、道端を覆う外来植物の花畑、人工林や山火事跡の二次林、鉄塔の上で子育てをする野鳥、ヒグマに荒らされた畑、車に轢かれて横たわるキタキツネやエゾタヌキ、野鳥への餌やりなどなど、私たちと自然とのかかわりは無限に存在します。今回の写真展は、こうした人と自然との関わりに注目した写真を募集し、ご応募いただいた写真約80点を中心に展示する一風変わった企画展です。写真には撮影者のコメントが付されており、撮影者と観覧者が自然の現状や起こっている現象、情報などを共有できるように工夫しています。何気ない身近な自然の中に、実は私たち人間の「生き方(ライフスタイル)」が大きく影響していることを改めて認識し、自然を見る目を共に育み、学ぶ機会になればと思っています。多くの方のご来場をお待ちしております。

(生涯学習センター学芸員 澤田 健)



野生のエゾキウサギ
(撮影場所生涯学習センター)

公募写真展

「北海道・人とかかわる自然の姿」

7月21日(土)～8月26日(日)
富良野市生涯学習センター
富良野市山部東21線12
お問合せ 0167-42-2407

ふらのクリエイターズマーケット

(於:富良野市生涯学習センター)

6月23日、24日、アートクラフトイベント「ふらのクリエイターズマーケット」が開催され、2日間で、参加者90組、9,000人の動員がありました。11年前、富良野市山部でクリエイターと地域の人たちの出会いと交流の場を目的に開催されたこのイベントも、地域のボランティア活動に支えられ全国的な知名度となり、今や「モノづくり」を通じてコミュニケーションを図る場へと進化しています。毎年6月最終週の土・日で行われるこのイベント。12回目の来年に向けて、恒枝直豆実行委員長(山部在住・陶芸家)から「今年も地元のご協力で開催出来、大盛況に終わったマーケットでした。ありがとうございました。作家のクオリティーもご来場者の見る目も高く、ようやく楽しいマーケットになってきたと思います。来年も更に楽しい作品や新しい作家が参加されることを期待して、私も皆さんと共に1年待つことにしましょう」とメッセージをもらいました。



農業高校だった体育館